

平成20年度
「エコ・サマータイム実践PR事業」実施結果

I	エコ・サマータイム実践PR事業の概要	
1	事業目的	1
2	実施期間	1
3	参加者	1
4	実施形態	1
5	対外的な業務等への配慮	1
II	環境配慮行動の実践	
1	取組方法	2
2	取組状況	2
III	アンケート調査の結果	
	回答者の属性（年齢、男女、職種、参加期間）	4
Q1	サマータイムの参加状況	6
Q2	環境配慮行動の個人メニューの実践状況	6
Q3-1	環境に対する意識や行動の変化	7
Q3-2	見直すきっかけとなった理由	7
Q3-3	見直すきっかけとならなかった理由	8
Q4-1	早期退社後の環境配慮の面での時間活用	8
Q4-2	有効に活用できた内容	9
Q4-3	有効に活用できなかった理由	9
Q5-1	早期退社後の余暇や趣味面での時間活用	10
Q5-2	有効に活用できた内容	10
Q5-3	有効に活用できなかった理由	11
Q6	業務などへの影響	11
Q7	国の制度導入に向けて必要と思われる対策	12
Q8	環境配慮行動のマイ行動メニューに対する感想・意見	12
Q9	エコ・サマータイムについての自由意見（主なもの）	12
	(参考)	
資料1	環境配慮行動メニュー（41項目）	13
資料2	マイ行動メニューによるサマータイム実践PR事業イメージ	14
資料3	エコ・サマータイム実践PR事業アンケート調査票	15

I エコ・サマータイム実践PR事業の概要

1 事業目的

昼間の時間の有効活用ができる時期に、道として「エコ・サマータイム実施期間」を設け、道職員自らが環境にやさしい行動を実践し、道民に周知することにより、サマータイムに関する議論喚起と環境に対する意識の向上を図る。

2 実施期間

平成20年7月1日（火）～8月8日（金）（6週間）

※ この期間で1週間単位以上での参加

H19：7月17日（火）～8月10日（金）（4週間）

3 参加者

- ・ 知事部局、その他の部局で参加を希望する職員
- ・ 3,738名

【知事部局：2,975名（本庁1,251名・支庁1,724名） その他の部局：763名】

H19：知事政策部、環境生活部を中心に参加を希望する職員
2,491名（本庁1,022名・支庁1,469名）

4 実施形態

- ・ 参加職員は、勤務時間を通常より1時間早める早出勤務
- ・ 参加職員は、「北海道環境宣言」に基づく環境配慮行動の個人メニューを作成、登録、実践
- ・ 期間終了後、環境配慮行動の実施状況などについてアンケート調査を実施
- ・ 7月7日のガイアナイトに併せ本庁舎の一斉消灯(20時～22時)を実施

H19

- ・ 参加職員は、勤務時間を通常より1時間早める早出勤務。
- ・ 参加者に「環境配慮行動実践シート」を配付し、期間中に環境配慮行動によるCO₂（二酸化炭素）排出削減効果等を検証。
- ・ 実践シートは、家族用も用意し、家庭内での取組を促進。
- ・ 期間終了後に参加職員に対しアンケートを行い、その結果を検証。

5 対外的な業務等への配慮

- ・ 道民への影響が大きい職場（病院、展示施設等）は対象外。
- ・ 各種窓口でのサービス提供等の時間は現在と同じ（時間変更はしない）。
- ・ それ以外の各職場の業務の終了時間も現在と同じ。

H19（H20と同様）

- ・ 道民への影響が大きい職場（病院、学校、展示施設等）は実験の対象外。
- ・ 各種窓口でのサービス提供等の時間は現在と同じ（時間変更はしない）。
- ・ それ以外の各職場の業務の終了時間も現在と同じ。

II 環境配慮行動の実践

1 取組方法

エコ・サマータイム実践PR事業では、北海道環境宣言で提唱する「北海道スピリッツ」と、環境にやさしい8つの行動をより多くの道民のみなさんにご理解いただき、実践していただくため、道職員による環境行動の率先実行が不可欠であるとの考えのもと、同宣言で提示された「道民・事業のための環境行動の手引き」の環境配慮行動メニューの41項目の中から自分のライフスタイルに合わせて選択（マイ行動メニュー）し、「サマータイム独自5項目」と併せて、環境配慮行動の実践目標として実践し、参加期間終了後にCO2の削減効果等の検証を実施。

※ 「環境配慮行動メニュー」（41項目）・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料1）

※ 「マイ行動メニューによるエコ・サマータイム実践PR事業イメージ」・・・・・・・・（資料2）

北海道環境宣言とは

北海道洞爺湖サミットを機に、北海道環境スピリッツ「3つの心」を大切に、環境にやさしい8つの行動を実践して、環境と調和した「エコアイランド北海道」づくりに道民総意のもと取り組んでいく決意を宣言したもの。

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/kss/top_page/declaration

2 取組状況

(1) 平成20年（個人メニュー）の実績について

- ・ 期間中におけるCO2の総削減量は、59,352Kgであった。
個人メニュー41項目の合計～49,460Kg
サマータイム独自5項目の合計～8,278Kg
ゴミの削減量(CO2換算)～1,614Kg
- ・ また、期間中における一人一日当たりの二酸化炭素削減量は1.08Kgであり、北海道環境宣言の行動目標の1.1kgに相当する効果があった。
- ・ なお、全道民が1年間欠かさず取り組むと、札幌ドーム約735杯分（約60万ト）（炭素換算）の二酸化炭素を削減できることとなる。

H19年度

- ・ 期間中における一人一日当たりの二酸化炭素削減量は、1.713Kgは、国の目標である「1人1日1Kg」を大きく上回った（「車の運転」に係る項目に対する行動や家電製品の利用を控える行動が大きな要因）。

(2) 「エコ・サマータイム独自の5項目」の実績について

マイ行動メニュー（41項目）のうち、サマータイムに関わる5項目について、参加した職員が生活時間を変更（通常より1時間早く帰宅）した結果、削減できたCO2の量を算出。

① CO2の総削減量

【平成20年度】

内 容	1日当たりのCO2削減量	延べ日数	実 績
就寝時刻を早めエアコンの稼働時間を1時間減らす	37g	16,015日	592,555g
就寝時刻を早め電灯を1時間早く消す	19g	23,661日	449,559g
就寝時刻を早めテレビを1時間早く消し、早朝番組は見ない	96g	22,197日	2,130,912g
家族全員で食事をし、温め直しをしなかった	6g	21,800日	130,800g
入浴は間隔をあけずに入り、追い炊きをしなかった	218g	22,816日	4,973,888g
合 計	376g	106,489日	8,277,714g

【平成19年度】

内 容	1日当たりのCO2削減量	延べ日数	実 績
就寝時刻を早めエアコンの稼働時間を1時間減らす	37g	1,441日	53,317g
就寝時刻を早め電灯を1時間早く消す	19g	5,968日	113,392g
就寝時刻を早めテレビを1時間早く消し、早朝番組は見ない	96g	5,202日	499,392g
家族全員で食事をし、温め直しをしなかった	6g	9,055日	54,330g
入浴は間隔をあけずに入り、追い炊きをしなかった	218g	1,429日	311,522g
合 計	376g	23,095日	1,031,953g

② アンケート用紙提出者のサマータイム平均参加日数

	1週間 (7日)	2週間 (14日)	3週間 (21日)	4週間 (28日)	5週間 (35日)	6週間 (42日)	総日数!	アンケート 提出者数 "	平均日数 ! /"
20年度	1,641名	796名	498名	152名	112名	329名	55,083日	3,528名	約16日
19年度	1,162名	601名	128名	231名	—	—	25,704日	2,135名	約12日

※アンケート回収率 平成20年度94.4% 平成19年度85.7%

③ 1人1日当たりのCO2削減量

	実 績	平均日数	1日当たりの削減量# (実績/平均日数)	参加人数\$	1人1日当たりの削減量 # / \$
20年度	8,277,714g	16日	517,357g	3,700名	139.8g
19年度	1,031,953g	12日	85,996g	2,500名	34.4g

- 平成20年度のサマータイム独自5項目実施結果（CO2削減量）は、平成19年度に比べ大幅に増加している。

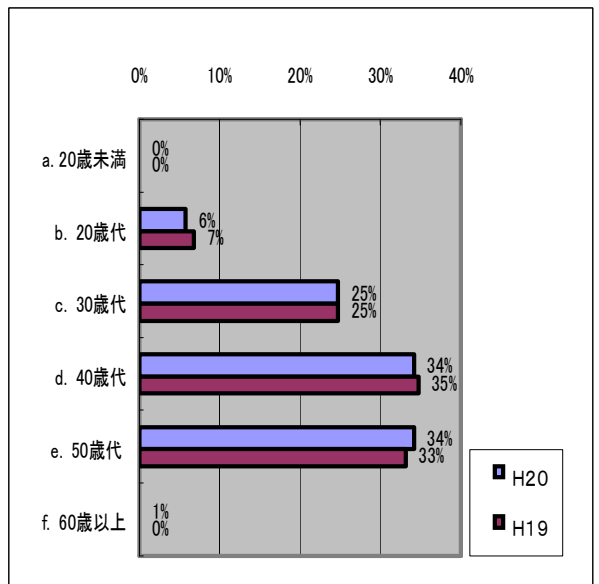
Ⅲ アンケート調査の結果【回答総数 3,528名 回収率 94.4%】

H19: 回答総数 2,135名 回答率 85.7%

回答者の属性

○ 年齢別

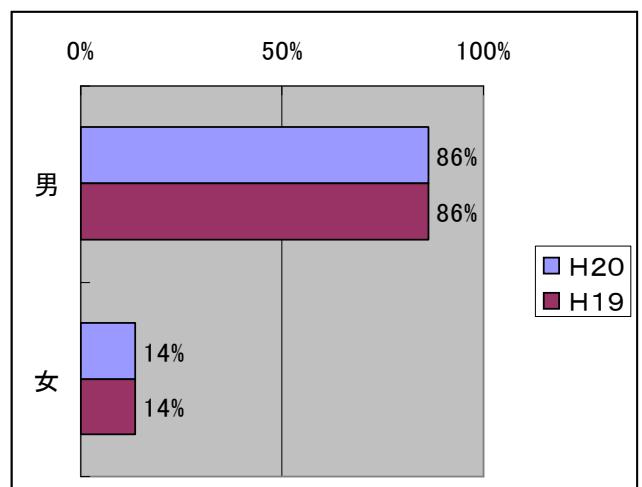
区 分	H20	H19
a. 20歳未満	7名 (0%)	2名 (0%)
b. 20歳代	213名 (6%)	143名 (7%)
c. 30歳代	881名 (25%)	528名 (25%)
d. 40歳代	1,201名 (34%)	747名 (35%)
e. 50歳代	1,203名 (34%)	705名 (33%)
f. 60歳以上	23名 (1%)	10名 (0%)



年齢構成率は、平成19年度と平成20年度とも、「40歳代」が最も高く、次いで「50歳代」「30歳代」の順であった。

○ 男女別

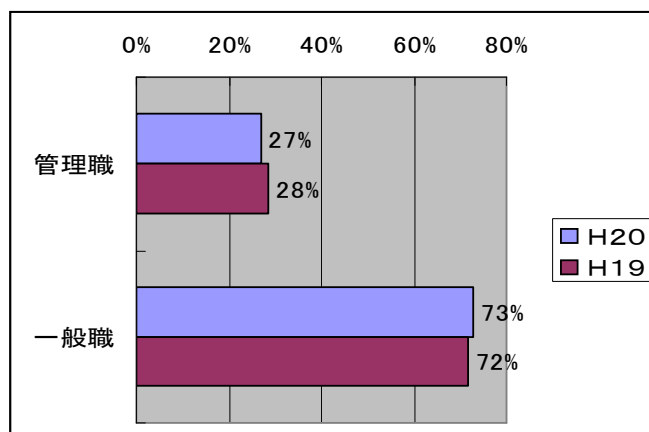
区 分	H20	H19
a. 男	3,047名 (86%)	1,838名 (86%)
b. 女	481名 (14%)	287名 (14%)



男女構成率は、平成19年度と平成20年度とも同率で「男」が86%、「女」14%であった。

○ 職種別

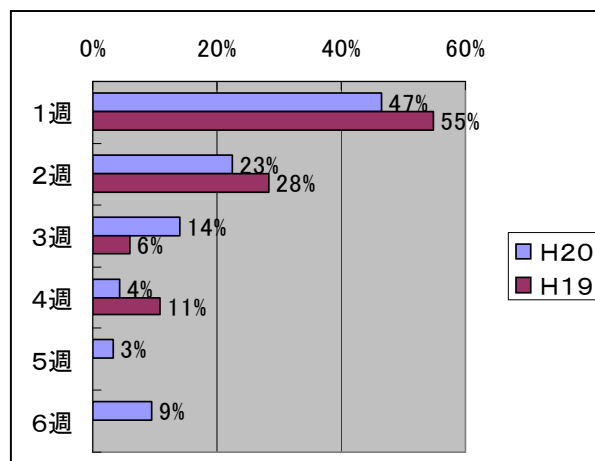
区 分	H20	H19
a. 管理職	951名 (27%)	598名 (28%)
b. 一般職等	2,577名 (73%)	1508名 (72%)



職種別構成率は、平成19年度と平成20年度ともほぼ同様であった。

○ 参加期間別

区 分	H20	H19
a. 1週間	1,641名 (47%)	1,162名 (55%)
b. 2週間	796名 (23%)	601名 (28%)
c. 3週間	498名 (14%)	128名 (6%)
d. 4週間	152名 (4%)	231名 (11%)
e. 5週間	112名 (3%)	—
e. 6週間	329名 (9%)	—

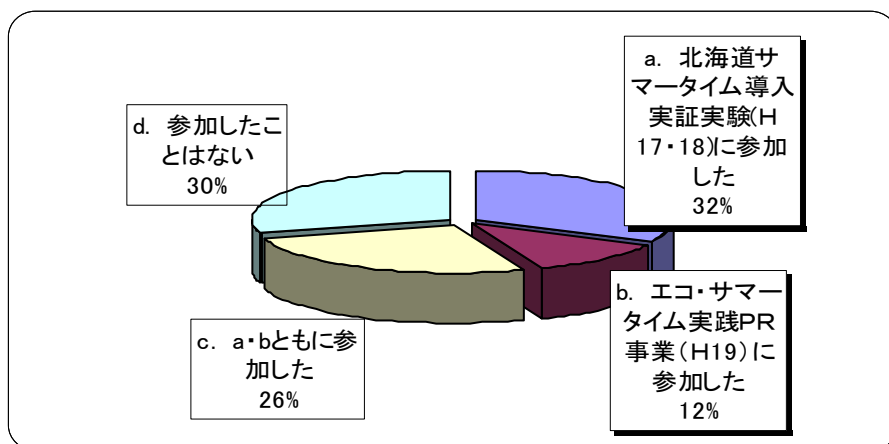


職種別構成率は、平成19年度と平成20年度とも同様に「1週目」が最も高く、次いで「2週目」の順であった。

Q 1 サマータイム参加状況について

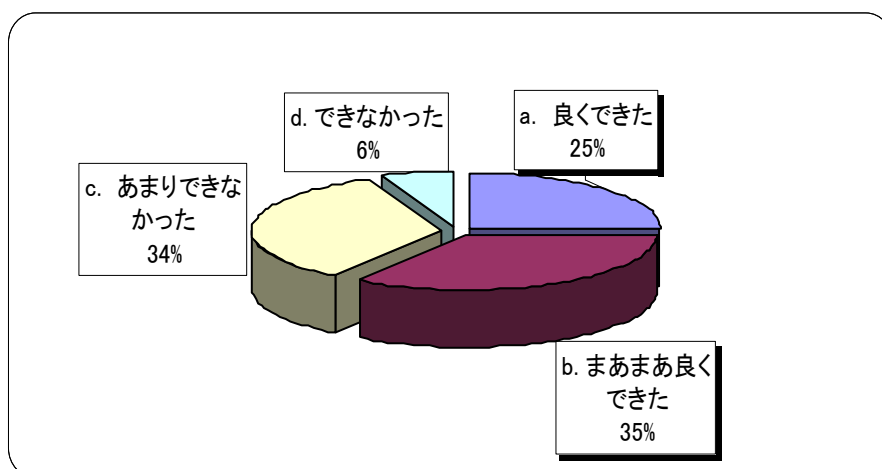
サマータイム参加の状況については、「北海道サマータイム導入実証実験（H17、H18）に参加した」が32%、「エコ・サマータイム実践PR事業（H19）に参加した」が12%、「実証実験・実践PR事業とも参加した」が26%、「参加したことはない」が30%となっている。

今回事業に参加した職員の70%が過去に参加経験を有しており、継続的に参加している職員が多い傾向が見られる。



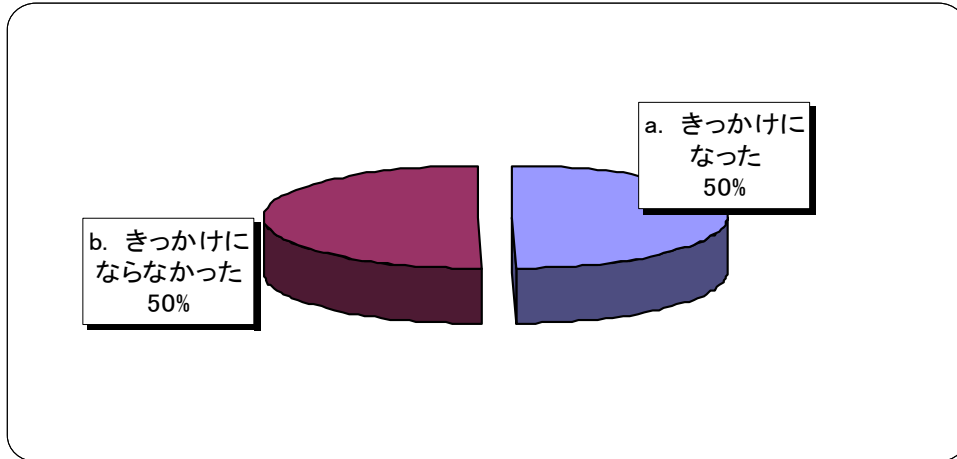
Q 2 環境配慮行動の個人メニューの実践状況について

「良くできた」が25%、「まあまあ良くできた」が35%。合わせて60%が環境配慮行動を実践している。



Q3-1 実験参加による環境に対する意識や行動の変化について

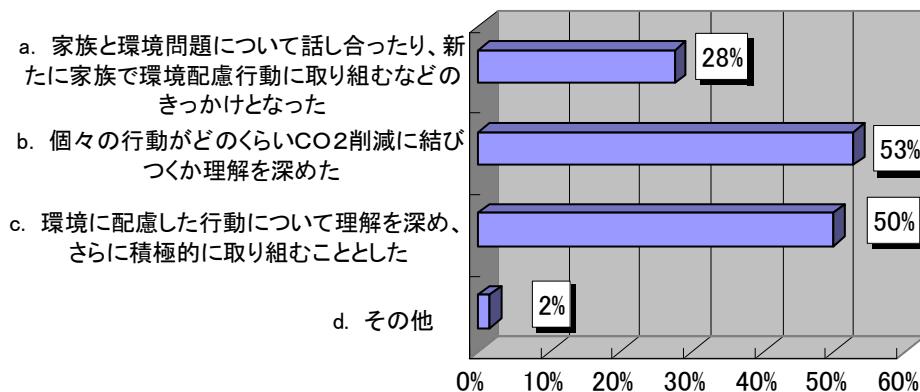
実験参加による環境に対する意識や行動の変化については、「(見直す) きっかけになった」が50%、「(見直す) きっかけにならなかった」も50%と同率となっている。



平成19年度は、「きっかけになった」が37%、「きっかけにならなかった」が63%となっており、昨年度に比べ本年度は「きっかけとなった」と回答した比率が高くなっている。

Q3-2 きっかけになった理由について (複数回答)

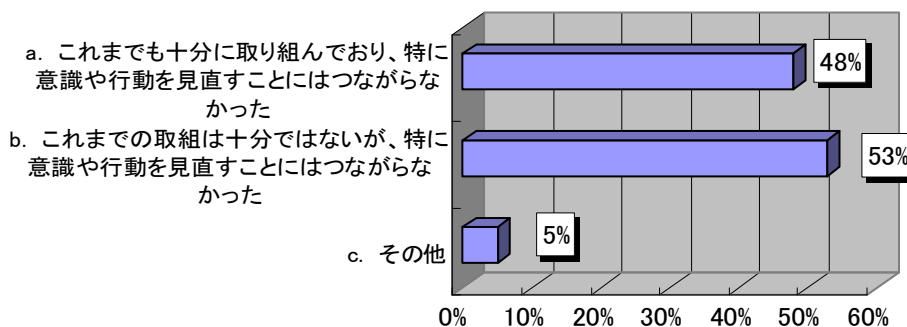
環境に対する意識や行動を見直すきっかけとなった理由については、「個々の行動によるCO2の削減や環境配慮行動について理解を深めた」が53%、「環境に配慮した行動について理解を深め、さらに積極的に取り組むこととした」が50%、「家族と環境問題について話し合ったりするきっかけとなった」が28%となっており、個々の行動のCO2削減効果や環境配慮行動への理解が促進したと言える。



平成19年度は、「家族と環境問題について話し合ったり、新たに家族で環境配慮行動に取り組むなどのきっかけとなった」が15%であった。昨年度に比べ本年度は、この項目を回答した比率が高くなっているが、その他の項目については、ほぼ同じ傾向である。

Q3-3 きっかけとならなかった理由について（複数回答）

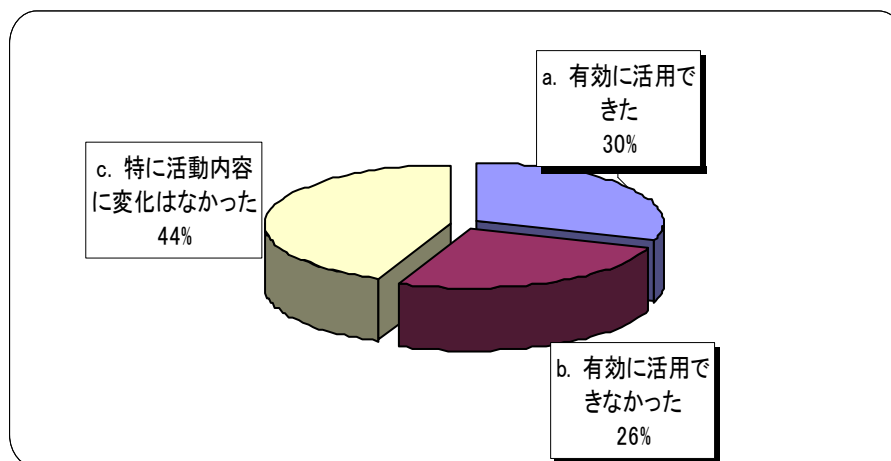
環境に対する意識や行動を見直すきっかけとならなかった中には、「これまでも十分に取り組んでおり、特に意識や行動を見直すことにつながらなかった」が48%含まれている。



平成19年度は、「これまでも十分に取り組んでおり、特に意識や行動を見直すことにつながらなかった」が33%、「これまでの取組は十分ではないが、特に意識や行動を見直すことにつながらなかった」が62%で、「その他」が6%であった。

Q4-1 早期退社後の環境配慮面での時間活用について

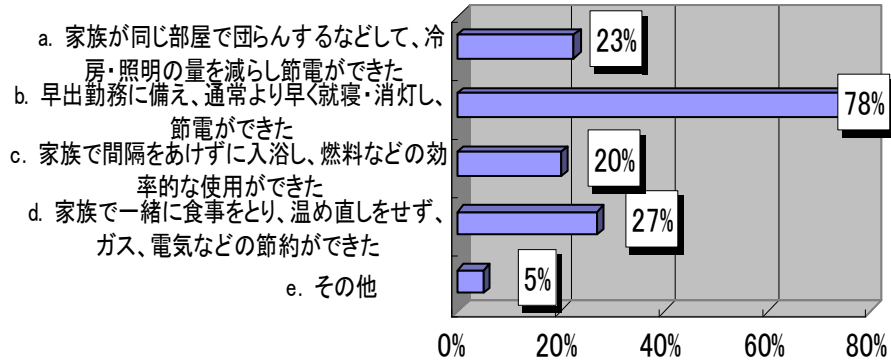
早期退社後の環境配慮面での時間活用については、参加期間が長くなるにつれ「有効に活用できた」と回答した比率が高く（1週：25%、3週：30%、6週：47%）なる傾向が見られる。



平成19年度は、「有効に活用できた」が27%、「有効に活用できなかった」が29%、「特に活動内容に変化はなかった」が43%であり、昨年度と本年度は、ほぼ同じ傾向にある。

Q 4 - 2 有効に活用できた内容について（複数回答）

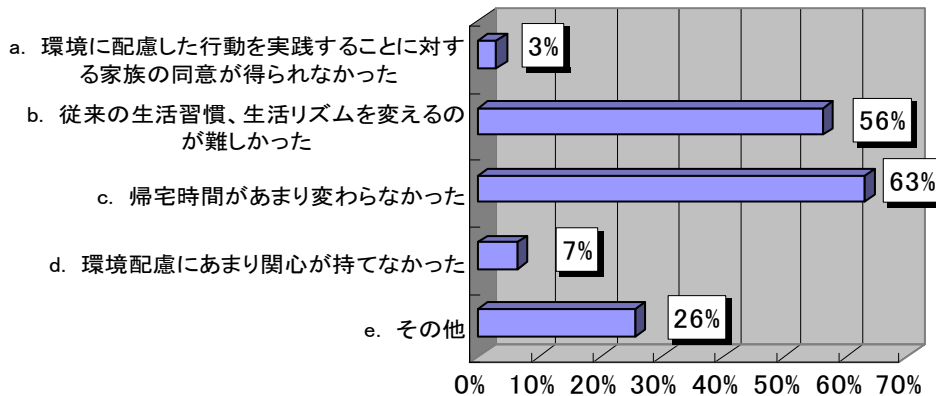
早期退社後、環境配慮の面で有効活用できた内容については、約8割が「早出勤務に備え、通常より早く就寝・消灯し、節電ができた（早寝消灯）」と回答していることから、特に節電には有効な取り組みであったと言える。



平成19年度は、「家族が同じ部屋で団らんするなどして、冷房・照明の量を減らし節電ができた」が15%、「早期勤務に備え、通常より早く就寝・消灯し、節電ができた」が78%。

Q 4 - 3 有効に活用できなかった理由について（複数回答）

早期退社後の環境配慮の面で有効に活用できなかった理由については、「帰宅時間が変わらない」が63%が最も多く、次いで「従来の生活習慣、生活リズムを変えるのが難しかった」が56%となっている。



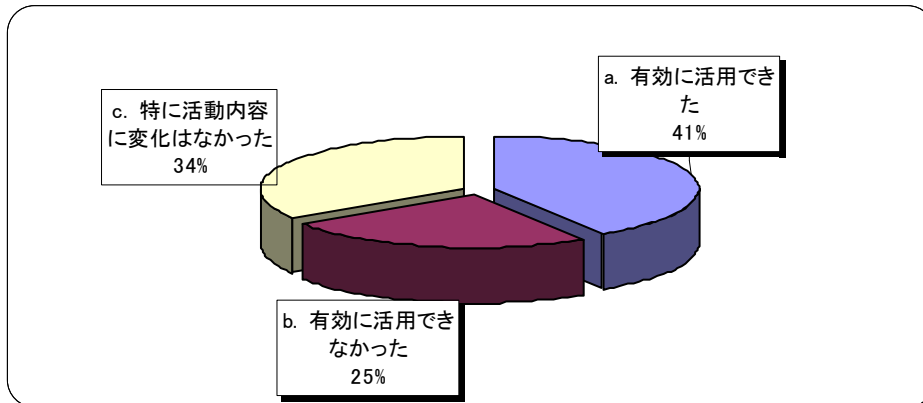
「e. その他」の主な意見

- ・業務や職場の都合により早く帰宅できなかった
- ・1時間程度の早帰りでは生活リズムに影響なし など

平成19年度は、「環境に配慮した行動を実践することに対する家族の同意が得られなかった」が3%、「従来の生活習慣、生活リズムを変えるのが難しかった」が40%、「帰宅時間があまり変わらなかった」が59%であった。昨年度と同様本年度も、「帰宅時間があまり変わらなかった」、「従来の生活習慣、生活リズムを変えるのが難しかった」の比率が高かった。

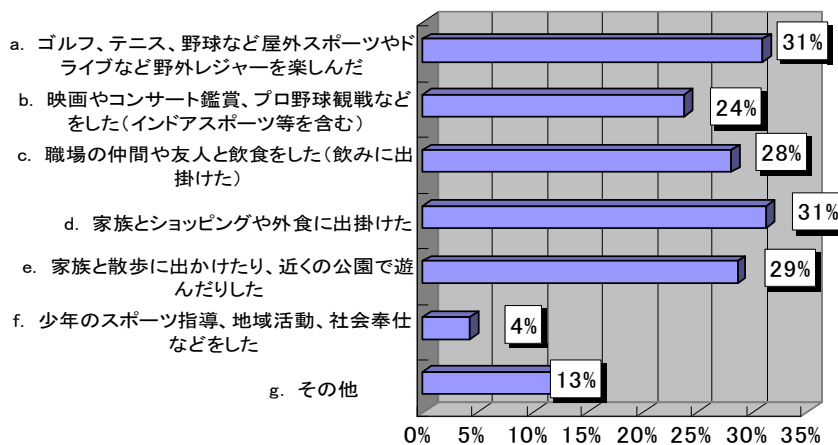
Q5-1 早期退社後の余暇や趣味面での時間の活用について

早期退社後の余暇や趣味面での時間活用については、「有効に活用できた」が41%、「有効に活用できなかった」が25%、「特に活動内容に変化はなかった」が34%となっている。



Q5-2 有効に活用できた内容について（複数回答）

余暇や趣味の面で有効活用できた内容については、「ゴルフ、テニス、野球など屋外スポーツやドライブなど野外レジャーを楽しんだ」「家族とショッピングや外食に出掛けた」が31%と最も多く、次いで「家族と散歩に出かけたり、近くの公園で遊んだりした」が29%、「職場の仲間や友人と飲食をした（飲みに出掛けた）」が28%の順に、早期退社後の時間を活用した。

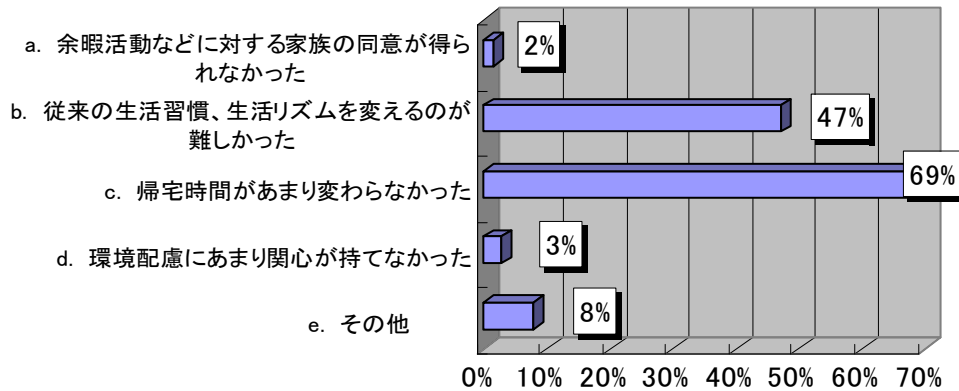


「g. その他」の主な意見）

- ・ 子どものコミュニケーションを取ることができた。
- ・ 旬の食材を活用した料理作りに余裕を持って取り組めた。
- ・ 家庭菜園に取り組んだ
- ・ 温泉巡り
- ・ 単身のため家族に早く会いに行けた。

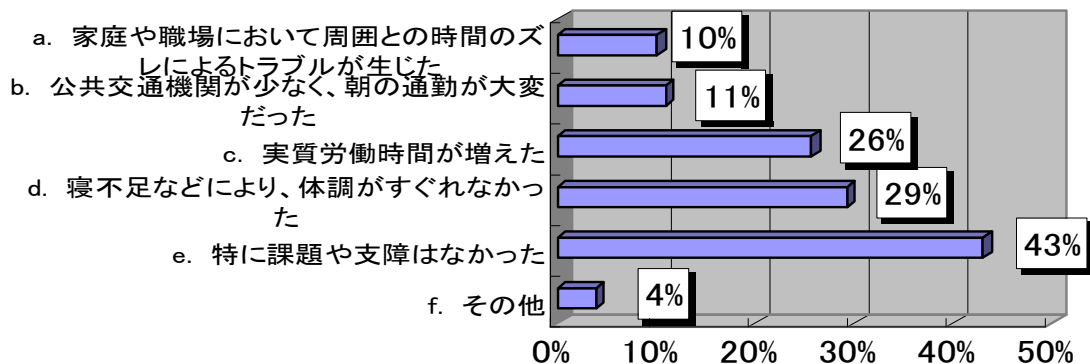
Q5-3 有効に活用できなかった理由について（複数回答）

早期退社後の余暇や趣味の面で有効に活用できなかった理由については、「帰宅時間が変わらない」が69%が最も多く、次いで「従来の生活習慣、生活リズムを変えるのが難しかった」が47%となっている。



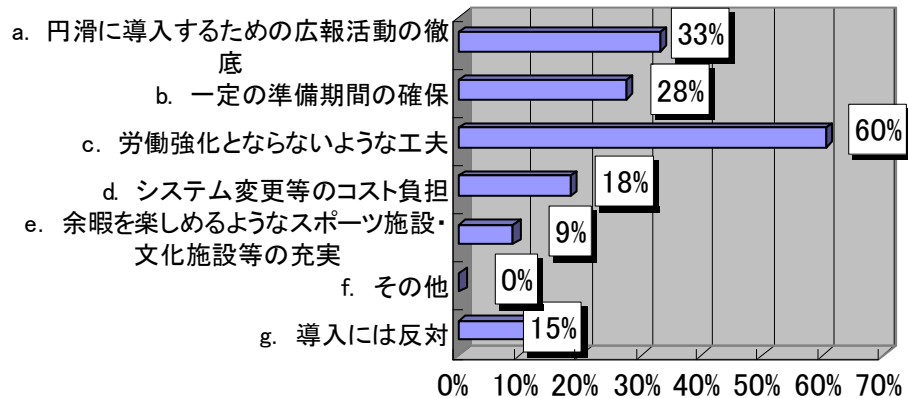
Q6 業務などへの影響について（複数回答）

4割超が「特に課題や支障がなかった」と回答しているが、一方では体調不良や労働時間増加などの影響も指摘されている。



平成19年度は、「家庭や職場において周囲との時間のズレによるトラブルを生じた」が11%、「公共機関が少なく、朝の通勤が大変だった」が11%、「実質労働時間が増えた」が23%、「寝不足などにより体調がすぐれなかった」が23%、「特に課題や支障はなかった」が47%で、「その他」が4%であり、昨年度と本年度は、ほぼ同じ傾向にある。

Q7 国の制度導入に向けて必要と思われる対策について（複数回答）



Q8 環境配慮行動のマイメ行動ニューに対する感想・意見

「昨年度の実践シートに比べて、とても簡単に作成することができるようになり、点検方法も分かりやすかったので良かった」、「簡単な操作によりCO2削減量がわかり、環境に配慮した行動への意欲が高まる」といった意見が約3割、「家族がいる人を想定しているものが多く選択に困った」、「作成は便利であるが、内容的には生活実態とあっていないような記述が多くあった」「夏なのに冬の暖房の項目があり、答えようがなかった」など改善を求める意見が約6割あった。

夏（サマータイム）に限定した取り組みでは、改善すべき点があったことや家族構成を加味した項目を設定することなど、今後参考とすべき意見も集約できた。

Q9 エコ・サマータイムについての自由意見（主なもの）

- サマータイムについては、効果や課題について幅広く議論し、実施する場合は、全国一律で行うことが必要。
- 環境配慮行動の個人メニューについて実績を検証し、項目の整理や道民運動への展開など、次の取り組みに反映させていくことが必要。